続く激震「家に帰れぬ」

竹田で震度5強

住民不安、再び避難所へ

いつまで続くのか。18日夜、竹田市荻町で震度5強を観測した地震。県内各地の避難所に身を寄せる人は日に日に減っていたが、強い揺れで住民が再び押し寄せた。「やっぱりまたきたか…」「もう家に帰れなくなった」。住民たちは先の見えない不安におびえた。

竹田市荻町の避難所・荻小学校体育館には4世帯5人が避難していた。今回の地震を受けて次々と住民が集まり、約2時間後には35世帯73人に。余震のたびに顔をこわばらせ、家族と手を取り合いながら、恨めしそうに天井を見つめた。町外の家族に携帯電話で無事を伝える姿も見られた。

1人暮らしの藤島ミホ子さん(80)＝荻町恵良原＝は自宅から歩いて避難所に来た。「斜め下から突き上げられるような感覚。これまでの揺れの中で一番激しかった。自宅の中は割れた食器が散乱したが、けがはなかった。16日から3泊目。きょうは余震が収まったので、家で眠ろうと思ったけど…」とあきらめ顔。

会社員白石誠志郎さん(33)＝荻町馬場＝は親族ら9人で避難所に逃げ込んだ。これまでの地震では自宅にとどまっていた。「入浴中に揺れて驚いた。部屋に飛び出し、家族の無事を確認した。16日未明の揺れも大きかったが、今回の方が明らかに激しい」。妻しおりさん(33)は「生後2カ月の次男を抱きかかえて必死で守った。今回ばかりは本当に命の危険を感じた」と青ざめた。

市によると、市役所横の市総合社会福祉センターは30分ほどで満杯の約200人が避難した。避難所を6カ所増やし、市内全14カ所で自主避難する市民に対応した。同センターに避難した市内竹田の会社員斉藤綾さん(41)は「母と2人で着の身着のまま逃げてきた。もう地震はないだろうと油断していた」。

16日未明に震度6弱の地震に襲われた由布市湯布院町。避難所の由布院小学校体育館には約70人が身を寄せていたが、強い揺れで午後10時半には倍増した。「怖くて自宅に戻れなくなった」と同町川上の中山三代子さん(85)。

豊後大野市では清川町で震度4を記録。三重町の三重ふれあい児童館に設けられた避難所も、3人だった避難者が午後10時には30人に達した。娘、孫と避難してきた女性は「娘が不安がるので」と緊張した表情を見せた。

日田市淡窓の咸宜小学校体育館にも午後10時までに住民52人が自主避難。近隣住民5人と避難した石松順子さん(69)＝同市中城町＝は「被害はなかったが、揺れた瞬間、パニックになった。また地震が起こるのか不安。早く収束してほしい」と話した。（取材班）

地震後に避難所に来る人たち＝18日午後9時21分、由布市湯布院町

地震直後の様子を語る避難所の人たち＝18日午後8時48分、由布市湯布院町

避難所の荻小学校で身を寄せ合う家族＝18日午後10時、竹田市荻町

情報収集に追われる竹田市役所の災害警戒本部＝18日午後10時55分、竹田市役所

別府羽室台高が漏水により休校

地震による漏水の影響で別府羽室台高校が19日、休校する。修理が終わり次第、授業を再開する。

県教委教育改革・企画課によると、18日から水が出なくなった。水道メーターは動いているため、漏水していることが分かった。漏水場所などは分かっていない。

中国の短期留学生 日程切り上げ帰国

別府溝部学園短大

別府市の別府溝部学園短期大学は、中国から短期留学している20人の留学生を19日に帰国させる。中国の大学からの要望を受け、29日までの日程を切り上げた。

同短大には約80人の留学生がおり、余震の不安から多くが16、17の両日、大学内で夜を過ごした。母国の家族や友人から、海外で発信される地震に関する情報を受け、不安感が増しているという。教職員が一人一人に丁寧にケアをしている。

幼稚園と小中学校 竹田で臨時休校

竹田市は18日夜の地震を受け、19日は市内の全ての幼稚園（3園）と小学校（12校）、中学校（6校）を臨時休校にすると発表した。

日赤、義援金の受付口座を追加

日本赤十字社は、熊本地震災害義援金の受付口座を追加した。受け付けは6月30日まで。

▽ゆうちょ銀行・郵便局口座番号「00130－4－265072」、加入者名「日赤平成28年熊本地震災害義援金」。

問い合わせは日本赤十字社県支部（☎097・534・2236）。

女性はねられ死亡

別府市の市道

18日午後7時45分ごろ、別府市火売の市道で、近くの会社員宇都宮孝さん(42)の軽乗用車が、道路上にいた近くの無職佐藤タツエさん(75)をはねた。佐藤さんは頭などを強く打ち、市内の病院に搬送されたが約3時間後に死亡が確認された。

別府署によると、現場に横断歩道はない。事故原因を調べている。同署は19日から5日間、交通非常事態宣言を出し、取り締まりを強化する。

国の支援物資 別府市に到着

大分、熊本両県の被災者を支援する国の災害備蓄品が18日、別府市に到着した。同市石垣東にある国土交通省別府港湾・空港整備事務所の倉庫に保管し、大分県が県内外の被災地からの要請に応じて現地に配送する。

届いた物資は中国、四国両地方整備局が備蓄していた水2㌧入りのペットボトル約5千本と、水やお湯を注ぐと食べられるアルファ米670食、缶詰600個など。広島県と愛媛県から海面清掃船、港湾業務艇計4隻を使って輸送し、別府国際観光港で陸揚げした。日本埋立浚渫協会九州支部に加盟する県内の港湾建設業者3社が作業に協力した。

届いた支援物資を運ぶ中国、四国両地方整備局の職員ら

被災者を対象に住宅の無償提供

豊後企画集団

大分市の不動産業「豊後企画集団」は18日、熊本地震の被災者を対象に空室物件の無償提供を始めた。

自社管理する市内のアパートの空き部屋50～60室を準備した。間取りなどは相談に応じる。提供期間は3カ月から半年程度を目安としている。同社は「自宅が壊れて住めなくなった人などは、ぜひ活用してほしい」としている。

問い合わせは同社（☎097・537・4975）。

四重奏

◇…結婚、子育て、ワークライフバランスなど人生設計を考えるきっかけに―。若い世代に役立ててもらおうと、県は啓発用の冊子「motto未来へ」を作製した。助産師や育児経験者ら9人のメッセージが盛り込まれている。（写真）

◇…県は、2013年度から3カ年で「次代の親づくり推進事業」を実施。大学でライフデザイン講座を開いてきた。今回の冊子は、パートナーの大切さや産婦人科の現場、地域での子育て支援などを語った講座内容をまとめた。

◇…A5判、36ページ。1万部発行。県内の高校や大学に配布する他、県庁や県内のローソンなどで無料配布している。問い合わせは、県こども未来課（☎097・506・2718）。

①スーパーなど水や保存食、品薄に

県内の小売店で水やパン、カップ麺といった商品が品薄になっている。地震に備えて消費者が保存食を買い置きする動きがあるため。熊本県内の生産工場が被災し、入荷が減っている品目もある。

②7市町で断水や濁り

地震の影響で県内は17日現在、日田市、九重町など7市町で断水や濁りなどの水道被害が続き、給水所を設けるなどして対応している。再開の見通しは立っていない。

大分合同新聞 プレミアムオンライン Gate ゲート
18日アクセスランキング

③県内の負傷者は24人に

大分県内で史上最大となる震度6弱の揺れを観測した地震から丸1日がたった17日、県内では余震とみられる地震が続いた。新たに確認された負傷者もおり、県内のけが人は24人になった。

Gateはスマートフォンでもご覧いただけます。アクセスはこちらのQRコードから。